

# ロボット・テクノロジー 関連株ファンド (年1回決算型) -ロボテック (年1回) -

## 運用報告書 (全体版) 第8期

(決算日 2023年9月13日)

(作成対象期間 2022年9月14日~2023年9月13日)

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、日本を含む世界のロボット関連企業の株式に投資し、値上がり益を追求することにより、信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

### 大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社  
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
お問い合わせ先 (コールセンター)  
TEL 0120-106212  
(営業日の9:00~17:00)  
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2016年2月8日~2025年9月12日	
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	当ファンド	イ. アクサIM・グローバル・ロボット関連株ファンド (為替ヘッジなし) (適格機関投資家専用) の受益証券 ロ. ダイワ・マネースtock・マザーファンドの受益証券
	ダイワ・マネースtock・マザーファンド	円建ての債券
組入制限	当ファンドの投資信託証券組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	純資産総額の10%以下
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益 (評価益を含みます。) 等とし、原則として、信託財産の成長に資することを目的に、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。	

## 最近5期の運用実績

決算期	基準価額			MSCI AC World指数 (税引後配当込み、円換算)		公社債 組入比率	投資信託 組入比率	純資産 総額
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落率	(参考指数)	期中 騰落率			
4期末(2019年9月13日)	円 16,714	円 0	% 0.3	14,312	% 1.4	% -	% 99.3	百万円 14,917
5期末(2020年9月14日)	21,446	0	28.3	15,356	7.3	-	99.2	13,015
6期末(2021年9月13日)	30,189	0	40.8	21,033	37.0	-	99.1	15,627
7期末(2022年9月13日)	27,933	0	△ 7.5	23,730	12.8	-	99.0	15,034
8期末(2023年9月13日)	30,664	0	9.8	26,887	13.3	-	99.5	15,838

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) MSCI AC World指数（税引後配当込み、円換算）は、MSCI Inc.（「MSCI」）の承諾を得て、MSCI AC World指数（税引後配当込み、米ドルベース）をもとに円換算し、当ファンド設定日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。MSCI AC World指数（税引後配当込み、米ドルベース）は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。本ファンドは、MSCIによって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、MSCIは本ファンドまたは本ファンドが基づいているインデックスに関していかなる責任も負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。（<https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmarket/notice.html>）

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

(注5) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

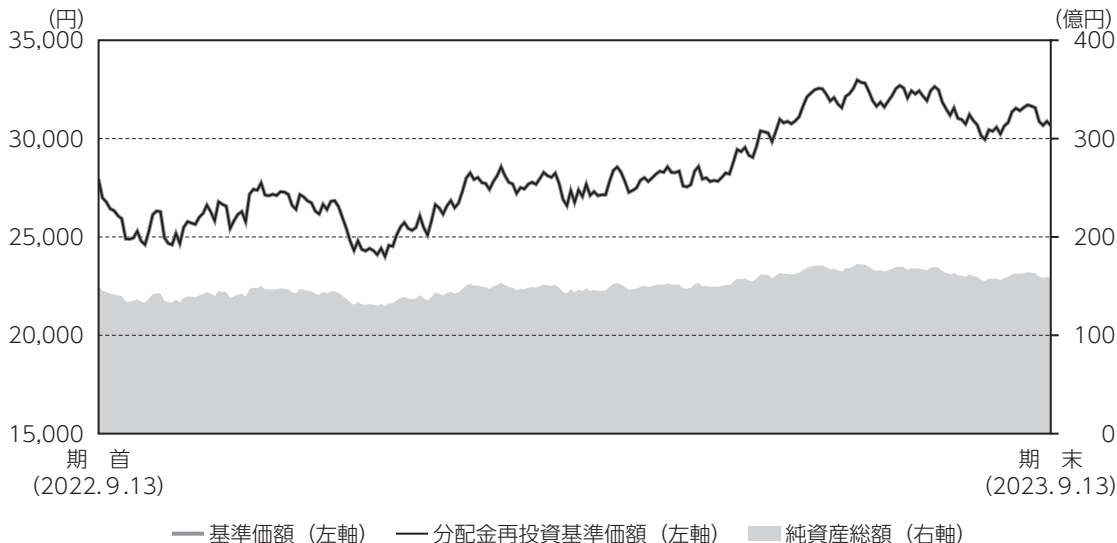
(注6) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

※参考指数を「MSCI AC World指数（配当込み、円換算）」から「MSCI AC World指数（税引後配当込み、円換算）」に変更しました。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

\* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

\* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

#### ■ 基準価額・騰落率

期首：27,933円

期末：30,664円（分配金0円）

騰落率：9.8%（分配金込み）

#### ■ 基準価額の主な変動要因

当作成期の基準価額は、グローバル株式市況の上昇や円安の進行がプラス要因となり、上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

年 月 日	基 準 価 額		MSCI AC World指数 (税引後配当込み、円換算) (参考指数)		公 社 債 組 入 比	投 資 組 資 益 入	信 託 証 比 券 率
	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率			
(期首) 2022年 9月13日	円 27,933	% -	23,730	% -	% -	% 99.0	
9 月末	24,793	△11.2	21,339	△10.1	-	98.4	
10月末	26,789	△ 4.1	23,079	△ 2.7	-	99.1	
11月末	26,403	△ 5.5	22,702	△ 4.3	-	99.0	
12月末	24,417	△12.6	21,360	△10.0	-	97.7	
2023年 1 月末	26,485	△ 5.2	22,281	△ 6.1	-	98.9	
2 月末	27,682	△ 0.9	22,829	△ 3.8	-	99.1	
3 月末	28,383	1.6	22,744	△ 4.2	-	99.0	
4 月末	27,655	△ 1.0	23,256	△ 2.0	-	99.2	
5 月末	30,282	8.4	24,370	2.7	-	99.4	
6 月末	32,551	16.5	26,232	10.5	-	99.2	
7 月末	32,442	16.1	26,652	12.3	-	99.4	
8 月末	31,545	12.9	26,991	13.7	-	99.4	
(期末) 2023年 9月13日	30,664	9.8	26,887	13.3	-	99.5	

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

## 投資環境について

(2022.9.14~2023.9.13)

### ■グローバル株式市況

グローバル株式市況は上昇しました。

グローバル株式市況は、当作成期首より、予想以上のインフレ率の上昇や英国の財政悪化懸念などで欧米の金利が上昇したこと、欧米企業の業績見通しの下方修正が相次いだことなどが嫌気され、2022年10月半ばにかけて下落しました。その後は、英国市場の混乱が収束して欧米の金利上昇が一服したことや、F R B（連邦準備制度理事会）の利上げペース鈍化への期待から、2023年1月末までは堅調に推移しました。しかし、2月には予想を上回る経済指標の発表を背景に金利が上昇したことが嫌気され下落すると、3月には米国の地方銀行の経営破綻をきっかけに金融システムに対する警戒感が高まったことで、さらに下落しました。その後、F R Bが緊急融資枠を新設したことで地方銀行の資金繰り懸念が後退すると、3月後半は成長株を中心に上昇しました。4月からは、地方銀行の経営不安や米国の債務上限問題への懸念が上値を抑えた一方、予想を上回る企業決算の発表が好感され、横ばいでの推移が続きましたが、5月下旬以降は、A I（人工知能）関連で使用される半導体メーカーの強気見通しや、インフレ率の鈍化などが好感されて大幅に上昇しました。8月以降は、長期金利が上昇したことやF R B高官発言への警戒感の高まりなどから、当作成期末にかけて上値の重い展開となりました。

### ■為替相場（米ドル／円、ユーロ／円）

米ドル円相場は上昇（円安）しました。

米ドル円相場は、当作成期首より2022年10月にかけて、米国金利の上昇により日米金利差が拡大したことなどから、上昇しました。その後は、インフレ率の減速期待から米国金利が低下したことや、12月に日銀が想定外の政策修正を行ったことで金融緩和政策の転換が意識されたことなどを受けて、2023年1月中旬にかけては下落（円高）しました。2月には堅調な米国の経済指標を受け米国金利が大きく上昇しました。3月には信用不安の拡大により米国金利が大きく低下するなど、米国金利の動向に左右され米ドル円相場も不安定な値動きをしましたが、4月以降は、F O M C（米国連邦公開市場委員会）の利上げ姿勢が意識されたことで上昇基調が続きました。7月には、日本の政府要人等による円安けん制発言や日銀の政策運営の柔軟化決定を受けて、米ドルが一時的に対円で下落しましたが、米国経済指標の上振れなどを背景にその後も米国金利の上昇が続いたことから、当作成期末にかけて米ドルの対円での上昇基調が続きました。

ユーロ円相場は上昇（円安）しました。

ユーロ円相場は、当作成期首より、E C B（欧州中央銀行）の利上げにより日欧の金利差が拡大したことから上昇しました。2022年12月には、日銀の金融緩和政策の転換が意識されたことなどが円買い材料となったこともあり、2023年に入ってもしばらく一進一退での推移が続きました。その後、E C Bが利上げ継続を示唆したことで日欧の金利差が拡大し、6月末にかけて円安ユーロ高が進みました。7月に入ると、ユーロ圏の利上げ見通しが低下しユーロが売られた一方で、日銀の政策修正期待を背景に円が買われたことで、やや円高ユーロ安に振れました。8月に入り、E C B高官が利上げの継続を示唆する一方で、日銀は将来のインフレが目標を下回る見通しであることを理由に緩和姿勢の継続を示したことから、円安ユーロ高に値を戻し、その後、当作成期末にかけては横ばいでの推移が続きました。

## 前作成期末における「今後の運用方針」

### ■当ファンド

ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）の組入比率を、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。

※ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）：アクサIM・グローバル・ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）

### ■ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場のさまざまなロボット関連産業の企業に投資を行います。「作る」では、ロボット産業におけるリーディングカンパニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業などに注目しています。「運ぶ」では、自動運転の実現を可能とするソフトウェアや半導体企業に注目しています。「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業などに注目しています。

グローバル経済は徐々にコロナウイルスの影響から立ち直り、本格的な回復局面へと向かう中、引き続き、ヘルスケア、自動車、テクノロジー、物流など幅広い分野でロボット関連技術の導入が加速すると考えられます。今後も、将来的な成長期待の高いロボット関連産業の企業に投資を行うことで中長期的な信託財産の成長をめざしてまいります。

### ■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

## ポートフォリオについて

(2022.9.14~2023.9.13)

### ■当ファンド

当ファンドは、「ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）」と「ダイワ・マネースtock・マザーファンド」へ投資するファンド・オブ・ファンズです。当作成期を通じて、「ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）」を高位に組み入れました。

### ■ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

当ファンドは、「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場のさまざまなロボット関連産業の企業に投資を行い、信託財産の成長をめざしました。企業規模の面ではアマゾン・ドット・コムやキーエンスのような大型株からシリコン・ラボラトリーズやグローバース・メディカルなどの中小型株にも幅広く投資しました。地域別ではロボット関連産業の技術革新において先進的な地域である米国、日本を中心に投資しました。

当作成期は、産業自動化ビジネスに強みを持つ三菱電機や溶接などの自動化ソリューションを提供す

る米国のリンカーン・エレクトリック・ホールディングズ、半導体製造用機器などを提供している米国のアプライド・マテリアルズなどを新規に組み入れました。一方で、倉庫自動化の需要が一時的に減速する可能性を考慮して米国のコグネックスを一部売却し、ジョンソン・エンド・ジョンソンにより買収されると発表された米国のヘルステック企業のアビオメッドを全売却しました。

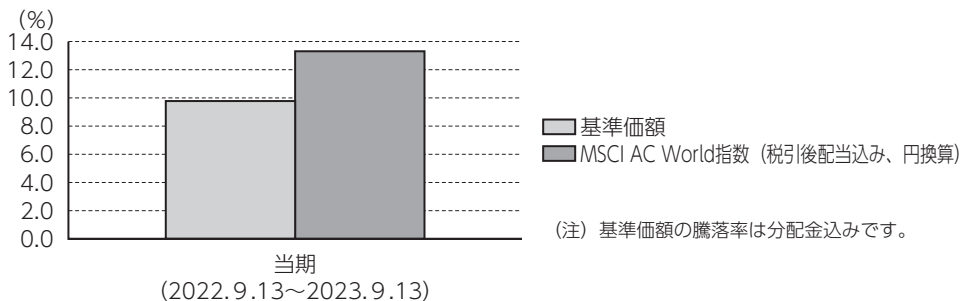
### ■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



## 分配金について

当作成期は、信託財産の成長を考慮し、収益分配を見送らせていただきました。  
なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### ■分配原資の内訳（1万口当たり）

項 目	当 期	
	2022年9月14日 ～2023年9月13日	
当期分配金（税込み）	（円）	-
対基準価額比率	（%）	-
当期の収益	（円）	-
当期の収益以外	（円）	-
翌期繰越分配対象額	（円）	20,663

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

（注4）投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはございません。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

「ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）」の組入比率を、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。

### ■ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場のさまざまなロボット関連産業の企業に投資を行います。「作る」では、ロボット産業におけるリーディングカンパニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業などに注目しています。「運ぶ」では、自動運転の実現を可能とするソフトウェアや半導体企業に注目しています。「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業などに注目しています。

米国を中心に労働市場はひっ迫した状態が続いており、労働力不足と労働コストの上昇は向こう数年にわたって自動化需要の大きな原動力になると考えています。企業にとって、効率性や生産性を向上させるためにテクノロジーを導入し、プロセスを自動化させる必要性が高まっています。労働コストの上昇は、企業の自動化導入の費用対効果を高めることになるため、より多くの分野で自動化が検討されると考えられます。今後も、将来的な成長期待の高いロボット関連産業の企業に投資を行うことで中長期的な信託財産の成長をめざしてまいります。

### ■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。



## 1万口当りの費用の明細

項 目	当期 (2022.9.14~2023.9.13)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	350円	1.237%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は28,287円です。
（投 信 会 社）	(109)	(0.385)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(233)	(0.825)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	(8)	(0.027)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	2	0.008	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（監 査 費 用）	(2)	(0.008)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	352	1.246	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

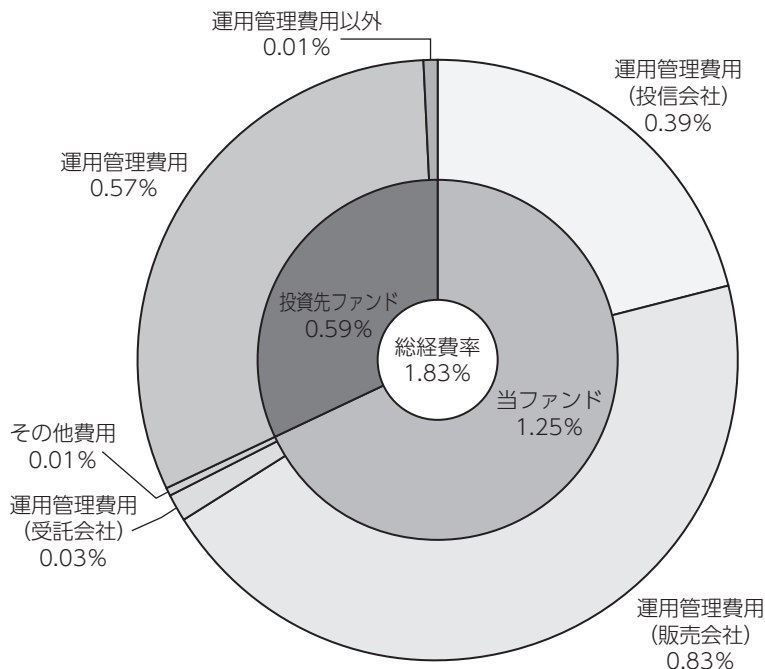
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

## 参考情報

### ■総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.83%です。



総経費率 (①+②+③)	1.83%
①当ファンドの費用の比率	1.25%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.57%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.01%

(注1) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 投資先ファンドにおいて、上記以外に含まれていない費用は認識しておりません。

(注4) 各比率は、年率換算した値です。

(注5) ①の費用は、1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注6) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注7) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■売買および取引の状況  
投資信託受益証券

(2022年9月14日から2023年9月13日まで)

国	内	買付		売付	
		□ 数	金 額	□ 数	金 額
		千口	千円	千口	千円
	アクサIM・グローバル・ロボット関連株式ファンド(為替ヘッジなし)(適格機関投資家専用)	167,069.807	395,000	449,049.132	1,185,000

(注1) 金額は受渡し代金。  
(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	当 期 末		
	□ 数	評 価 額	比 率
国内投資信託受益証券	千口	千円	%
アクサIM・グローバル・ロボット関連株式ファンド(為替ヘッジなし)(適格機関投資家専用)	5,472,880.573	15,752,592	99.5

(注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。  
(注2) 評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	期 首			当 期 末		
	□ 数	□ 数	評 価 額	□ 数	□ 数	評 価 額
	千口	千口	千円	千口	千口	千円
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	100	100	100	100	100	100

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2023年9月13日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	15,752,592	98.8
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	100	0.0
コール・ローン等、その他	197,538	1.2
投資信託財産総額	15,950,231	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2023年9月13日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	15,950,231,403円
コール・ローン等	197,538,652
投資信託受益証券(評価額)	15,752,592,153
ダイワ・マネースtock・マザーファンド(評価額)	100,598
(B) 負債	111,484,800
未払解約金	12,022,790
未払信託報酬	98,803,414
その他未払費用	658,596
(C) 純資産総額(A - B)	15,838,746,603
元本	5,165,314,002
次期繰越損益金	10,673,432,601
(D) 受益権総口数	5,165,314,002口
1万口当り基準価額(C / D)	30,664円

\* 期首における元本額は5,382,358,772円、当作成期間中における追加設定元本額は660,125,243円、同解約元本額は877,170,013円です。  
\* 当期末の計算口数当りの純資産額は30,664円です。

■損益の状況

当期 自2022年9月14日 至2023年9月13日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 88,308円
受取利息	8,004
支払利息	△ 96,312
(B) 有価証券売買損益	1,551,939,246
売買益	1,741,325,399
売買損	△ 189,386,153
(C) 信託報酬等	△ 187,183,251
(D) 当期損益金(A + B + C)	1,364,667,687
(E) 前期繰越損益金	3,526,463,949
(F) 追加信託差損益金	5,782,300,965
(配当等相当額)	( 3,371,136,489)
(売買損益相当額)	( 2,411,164,476)
(G) 合計(D + E + F)	10,673,432,601
次期繰越損益金(G)	10,673,432,601
追加信託差損益金	5,782,300,965
(配当等相当額)	( 3,371,136,489)
(売買損益相当額)	( 2,411,164,476)
分配準備積立金	4,891,219,962
繰越損益金	△ 88,326

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	471,775,384
(c) 収益調整金	5,782,300,965
(d) 分配準備積立金	4,419,444,578
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	10,673,520,927
(f) 分配金	0
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	10,673,520,927
(h) 受益権総口数	5,165,314,002口

**<補足情報>**

当ファンド（ロボット・テクノロジー関連株ファンド（年1回決算型）－ロボテック（年1回）－）が投資対象としている「ダイワ・マネーストック・マザーファンド」の決算日（2022年12月9日）と、当ファンドの決算日が異なっておりますので、当ファンドの決算日（2023年9月13日）現在におけるダイワ・マネーストック・マザーファンドの組入資産の内容等を掲載いたしました。

**■ダイワ・マネーストック・マザーファンドの主要な売買銘柄**

2022年9月14日～2023年9月13日における主要な売買銘柄はありません。

**■組入資産明細表**

2023年9月13日現在、有価証券等の組み入れはありません。

# ダイワ・マネースtock・マザーファンド

## 運用報告書 第13期 (決算日 2022年12月9日)

(作成対象期間 2021年12月10日～2022年12月9日)

ダイワ・マネースtock・マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

### ★当ファンドの仕組みは次の通りです。

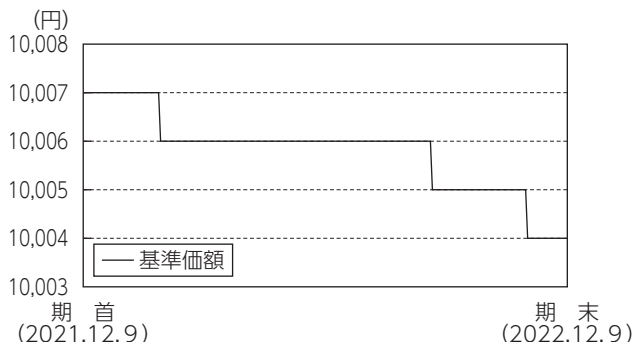
運用方針	安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。
主要投資対象	円建ての債券
株式組入制限	純資産総額の10%以下

## 大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社  
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

■当作成期中の基準価額と市況等の推移



年 月 日	基準価額		公社債 組入比率
	騰落率	騰落率	
(期首)2021年12月9日	円	%	%
12月末	10,007	-	-
2022年1月31日	10,007	0.0	-
2月31日	10,006	△0.0	-
3月31日	10,006	△0.0	-
4月31日	10,006	△0.0	-
5月31日	10,006	△0.0	-
6月31日	10,006	△0.0	-
7月31日	10,006	△0.0	-
8月31日	10,005	△0.0	-
9月31日	10,005	△0.0	-
10月31日	10,005	△0.0	-
11月31日	10,004	△0.0	-
(期末)2022年12月9日	10,004	△0.0	-

(注1) 騰落率は期首比。  
 (注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。  
 (注3) 当ファンドは、安定した収益の確保をめざして安定運用を行っており、ベンチマークおよび参考指数はありません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：10,007円 期末：10,004円 騰落率：△0.0%

【基準価額の主な変動要因】

コール・ローン等の利回りがマイナス圏で推移したことなどから、基準価額は下落しました。

◆投資環境について

○国内短期金融市況

当作成期を通じて、日銀は長短金利操作付き量的・質的金融緩和を維持しました。この金融政策を背景に、国庫短期証券（3カ月物）の利回りおよび無担保コール翌日物金利はマイナス圏で推移しました。

◆前作成期末における「今後の運用方針」

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

◆ポートフォリオについて

流動性や資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

■1万口当りの費用の明細

項目	当期
売買委託手数料	-円
有価証券取引税	-
その他費用	-
合計	-

(注1) 費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。

(注2) 項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

当作成期中における売買および取引はありません。

■主要な売買銘柄

当作成期中における主要な売買銘柄はありません。

■組入資産明細表

当作成期末における有価証券等の組み入れはありません。

■投資信託財産の構成

2022年12月9日現在

項目	当期末	
	評価額	比率
コール・ローン等、その他	千円 159,157,999	% 100.0
投資信託財産総額	159,157,999	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2022年12月9日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	159,157,999,197円
コール・ローン等	159,157,999,197
(B) 負債	—
(C) 純資産総額(A - B)	159,157,999,197
元本	159,095,941,234
次期繰越損益金	62,057,963
(D) 受益権総口数	159,095,941,234口
1万口当り基準価額(C/D)	10,004円

\*期首における元本額は147,676,216,454円、当作成期間中における追加設定元本額は146,804,060,770円、同解約元本額は135,384,335,990円です。

\*当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額：

ロボット・テクノロジー関連株ファンド - ロボテック	947,268円
ダイワ/ミレーアセット・インド株式ファンド - インドの匠	29,910,270円
ワールド・フィンテック革命ファンド (為替ヘッジあり)	998円
ワールド・フィンテック革命ファンド (為替ヘッジなし)	998円
US短期ハイ・イールド社債ファンド (為替ヘッジあり/毎月決算型)	102,434円
ロボット・テクノロジー関連株ファンド - ロボテック (為替ヘッジあり)	39,849円
ロボット・テクノロジー関連株ファンド (年1回決算型)	3,985円
-ロボテック (年1回) (為替ヘッジあり)	
iFreeレバレッジ S&P500	10,791,948,720円
iFreeレバレッジ NASDAQ100	75,953,937,119円
クリーンテック株式ファンド (資産成長型)	998,802円
ロボット・テクノロジー関連株ファンド - ロボテック (毎月決算/予想分配金提示型)	999円
世界インフラ戦略ファンド (為替ヘッジなし/毎月分配型)	1,000円
世界インフラ戦略ファンド (為替ヘッジなし/資産成長型)	499,501円
ダイワ上場投信-日経平均レバレッジ・インデックス	4,236,015,061円
ダイワ上場投信-日経平均ダブルインバース・インデックス	6,234,269,565円
ダイワ上場投信-TOP1Xレバレッジ(2倍)指数	1,010,016,980円
ダイワ上場投信-TOP1Xダブルインバース(-2倍)指数	926,363,625円
ダイワ上場投信-日経平均インバース・インデックス	7,290,053,955円
ダイワ上場投信-TOP1Xインバース(-1倍)指数	12,970,925,555円
ダイワ上場投信-JPX日経400レバレッジ・インデックス	538,317,221円
ダイワ上場投信-JPX日経400インバース・インデックス	151,994,519円
ダイワ上場投信-JPX日経400ダブルインバース・インデックス	107,919,373円
ダイワ米国投資法人債ファンド (為替ヘッジあり) 2016-07	997円
ダイワ米国投資法人債ファンド (為替ヘッジあり) 2016-10	997円
先進国トータルリターン戦略ファンド (リスク抑制型/適格機関投資家専用)	207,414,601円
ダイワ日本株式ベア・ファンド (適格機関投資家専用)	45,188,231円
ダイワ日本国債15-20年ラダー型ファンド・マネーポートフォリオ - S/Lトレード	4,992,083円
ブルベア・マネー・ポートフォリオ6	19,642,480,283円
ブル3倍日本株ポートフォリオ6	17,085,842,499円
ベア2倍日本株ポートフォリオ6	1,818,361,471円
ダイワ/ハリス世界厳選株ファンド・マネー・ポートフォリオ	42,615,540円
ダイワUS短期ハイ・イールド社債ファンド (為替ヘッジあり/年1回決算型)	9,957円
ダイワ米国バンクローン・オープン (為替ヘッジあり)	997円
ダイワ米国バンクローン・オープン (為替ヘッジなし)	997円
ダイワ新グローバル・ハイブリッド証券ファンド (為替ヘッジあり)	997円
ダイワ新グローバル・ハイブリッド証券ファンド (為替ヘッジなし)	997円
ダイワ/ミレーアセット亜細亜株式ファンド	4,148円
通貨選択型ダイワ/ミレーアセット・グローバル好配当株α (毎月分配型) 米ドル・コース	10,833円
通貨選択型ダイワ/ミレーアセット・グローバル好配当株α (毎月分配型) ブラジル・リアル・コース	10,788円
通貨選択型ダイワ/ミレーアセット・グローバル好配当株α (毎月分配型) 通貨セレクト・コース	12,751円
ロボット・テクノロジー関連株ファンド (年1回決算型) - ロボテック (年1回)	100,588円
ダイワ/ミレーアセット・アジア・セクターリーダー株ファンド	5,813円
ダイワ日本株ストラテジーα (通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ - 日本円・コース (毎月分配型)	398,764円
ダイワ日本株ストラテジーα (通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ - 豪ドル・コース (毎月分配型)	99,691円
ダイワ日本株ストラテジーα (通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ - ブラジル・リアル・コース (毎月分配型)	398,764円
ダイワ日本株ストラテジーα (通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ - 米ドル・コース (毎月分配型)	398,764円

ダイワ日本株ストラテジーα (通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ - 通貨セレクト・コース (毎月分配型)	15,402円
通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド - イーグルアイ2 - 予想分配金提示型 日本円・コース	300,273円
通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド - イーグルアイ2 - 予想分配金提示型 豪ドル・コース	200,861円
通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド - イーグルアイ2 - 予想分配金提示型 ブラジル・リアル・コース	300,273円
通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド - イーグルアイ2 - 予想分配金提示型 米ドル・コース	1,999,177円
通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド - イーグルアイ2 - 予想分配金提示型 通貨セレクト・コース	505,900円

\*当期末の計算口数当りの純資産額は10,004円です。

■損益の状況

当期 自2021年12月10日 至2022年12月9日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 48,809,986円
支払利息	△ 48,809,986
(B) 当期損益金(A)	△ 48,809,986
(C) 前期繰越損益金	101,772,030
(D) 解約差損益金	△ 77,894,524
(E) 追加信託差損益金	86,990,443
(F) 合計(B + C + D + E)	62,057,963
次期繰越損益金(F)	62,057,963

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。



■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	2050年9月12日まで	
運用方針	アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド（以下、「マザーファンド」）の受益証券を通じて、信託財産の成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	マザーファンドの受益証券
	マザーファンド	日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式（DR（預託証券）を含みます。以下同じ。）および株式関連証券
ベビーファンドの運用方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>主として、マザーファンドの受益証券に投資することにより、信託財産の成長を目指して運用を行います。</li> <li>マザーファンドの受益証券の組入比率は、原則として高位に維持します。</li> <li>実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。</li> <li>資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</li> </ol>	
マザーファンドの運用方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>技術革新が進展することで、ロボットおよび自動システムならびにセンサーシステムが産業プロセス、交通、ヘルスケアおよびコンシューマー向けアプリケーションに、より一層統合されることを目指す分野に着目し、世界中の主としてロボット関連および自動システムに関する調査、開発、デザインおよび製作に従事する企業に投資することで、信託財産の成長を目指して運用を行います。</li> <li>ポートフォリオの構築にあたっては、次の方針で行うことを基本とします。 <ol style="list-style-type: none"> <li>日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式から、ロボット・テクノロジーに関連する成長テーマを特定し、金融・経済情勢などを勘案することで長期にわたり成長の可能性を有する企業群を投資対象銘柄とします。</li> <li>投資対象銘柄の中から、中長期的にロボット関連事業が業績に対して大きな影響を有することが期待される企業に着目し、高度な技術力、強力な経営陣、価格決定力および業績上修正の可能性などを考慮することで、組入候補銘柄を選定します。</li> <li>選定した組入候補銘柄から、アクサ・インベストメント・マネージャーズの企業調査機能などを活用し、中長期的な業績拡大によって株価上昇が見込まれる銘柄を選択します。また、株価の上昇期待度、下落の余地やバリュエーションなどを考慮して組入比率を決定し、ポートフォリオを構築します。</li> </ol> </li> <li>株式および株式関連証券の組入比率は、原則として高位に維持します。</li> <li>運用にあたっては、アクサ・インベストメント・マネージャーズUKリミテッドに運用の指図に関する権限を委託します。</li> <li>外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。</li> <li>資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</li> </ol>	
組入制限	当ファンドのマザーファンド組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	無制限
分配方針	<p>毎決算時に原則として以下の方針に基づき分配を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①分配対象額の範囲は繰越分を含めた利子、配当等収益と売買益（繰越欠損補填後、評価損益を含む）等の金額とします。</li> <li>②分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。基準価額水準、市況動向等によっては分配を行わないこともあります。将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</li> <li>③留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。</li> </ol>	

# アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジなし)(適格機関投資家専用)

追加型投信／海外／株式

## 運用報告書（全体版）

第15期（決算日 2023年8月14日）

### 受益者の皆様へ

平素は格別のお引き立てにあずかり厚く御礼申し上げます。

さて、「アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）」は、このたび第15期の決算を行いました。当ファンドは、アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンドの受益証券を通じて、日本を含む世界のロボット関連株式に投資することにより、信託財産の成長を目指します。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

引き続き一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社  
東京都港区白金1-17-3 NBFプラチナタワー14階  
<http://www.axa-im.co.jp/>

《当運用報告書の記載内容に関する問い合わせ先》  
電話番号：03-5447-3160  
受付時間：9：00～17：00（土日祭日を除く）

■最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額 (分配落)	税 分 配 金			株 組 入 比 率	純 資 産 額
		税 分	配 金	騰 落 中 率		
11期末(2021年8月13日)	円 26,697	円 0	% 3.5	% 97.8	百万円 282,651	
12期末(2022年2月14日)	25,273	0	△ 5.3	97.1	256,918	
13期末(2022年8月15日)	26,053	0	3.1	95.5	268,374	
14期末(2023年2月13日)	25,522	0	△ 2.0	95.4	252,709	
15期末(2023年8月14日)	28,828	0	13.0	97.2	259,767	

(注1) 基準価額および分配金は1万円当たり。基準価額の騰落率は分配金込み。なお、当期は分配金はありません。

(注2) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■当期中の基準価額の推移

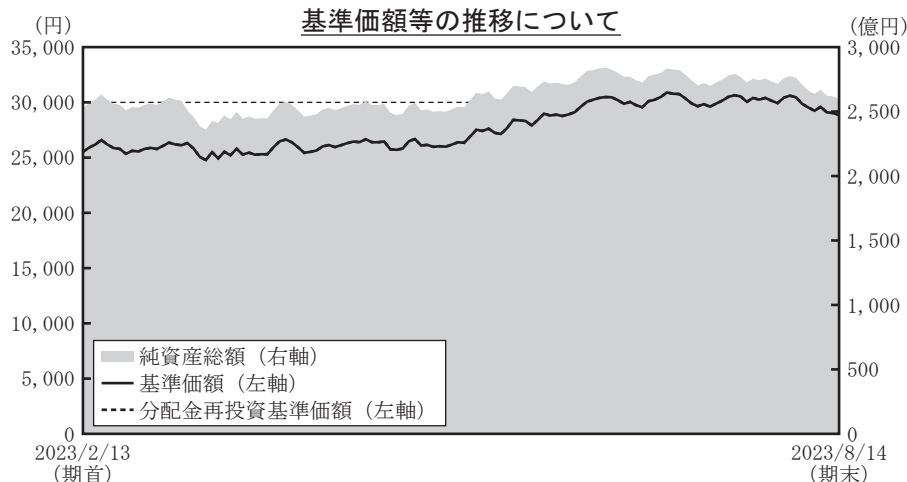
年 月 日	基 準 価 額	騰 落 率	
		騰 落 率	株 組 入 比 率
(期 首) 2023年2月13日	円 25,522	% —	% 95.4
2月末	25,785	1.0	95.2
3月末	26,474	3.7	96.0
4月末	25,813	1.1	96.0
5月末	28,312	10.9	97.1
6月末	30,490	19.5	97.5
7月末	30,420	19.2	96.8
(期 末) 2023年8月14日	28,828	13.0	97.2

(注1) 基準価額は1万円当たり。基準価額の騰落率は分配金込み、騰落率は期首比です。なお、当期は分配金はありません。

(注2) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■当期の運用状況（2023年2月14日～2023年8月14日）



期 首：25,522円  
 期 末：28,828円（既払分配金（税込み）：0円）  
 騰 落 率：13.0%（分配金再投資ベース）

【基準価額の主な変動要因】

当期は、主に米国の保有銘柄の株価が上昇したことがプラス要因となった他、為替市場で主要通貨に対して円安が進行したこともプラス要因となり、基準価額は上昇しました。

【投資環境について】

○グローバル株式市場

当期のグローバル株式市場は、上昇しました。期初より前月の上昇から反転し、3月には米テクノロジー企業への融資で知られるシリコンバレーバンク（SVB）が経営破綻した影響を受けて、株価は大きく下落した場面も見られたものの月末にかけて上昇しました。4月に入ると銀行システムに対する不安や米国の債務上限問題が市場参加者にとって新たな懸念材料となりましたが、2023年1～3月期の企業決算発表が概ね良好な結果となり、引き続き上昇しました。6月には米国債務上限問題の解決、銀行経営危機の収束、米国の利上げ停止（あるいは一時停止）、底堅い経済指標や良好な4～6月期の企業決算などの好材料が相まって当月の株式市場を押し上げました。7月以降も米国をはじめとして各国でインフレ率の低下傾向が続いていることが市場で好感されたことや、米国経済の「ソフトランディング（景気が急激に後退することなく緩やかに減速すること）」期待が高まったことから堅調に推移して、年初からの上昇幅を拡大しました。

○為替市場

為替市場では、米ドル・円レートは期初の132円台から期末には145円台となり、ユーロ・円レートは期初の141円台から期末には158円台となりました。

当期は、米ドルは日米金利差が意識されたことや、2023年4～6月（第2四半期）実質国内総生産（GDP）成長率（速報値）が市場予想（1.8%増）を上回ったことから、ユーロはインフレ圧力が続く中、欧州中央銀行（ECB）が7月に9会合連続で利上げを決定し、金融引き締め姿勢を継続する可能性があることなどから米ドル・ユーロに対して円安が進行しました。

### 【ポートフォリオについて】

#### ○当ファンド

主要投資対象である「アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れました。

#### ○アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場の様々なロボット関連産業の企業に投資を行い、信託財産の成長を目指しました。具体的には、ロボット関連産業、製造業・運輸・ヘルスケアなどの分野で自動化を行う企業、これらの企業の技術を下支えする半導体企業やソフトウェア企業などの銘柄を組み入れました。企業規模の面ではアマゾン・ドット・コムやキーエンスのような大型株からシリコン・ラボラトリーズやグローバス・メディカルなどの中小型株にも幅広く投資しています。地域別ではロボット関連産業の技術革新において先進的な地域である米国、日本を中心に投資をしています。

期中は、溶接・切断技術のスペシャリストで、顧客に自動化ソリューションを提供することに特に注力している米国のリンカーン・エレクトリック・ホールディングズと半導体製造用機器・サービス・ソフトウェアを提供している米国のアプライド・マテリアルズを新規に組入れました。また、仙骨神経刺激装置を手掛ける米国のアクソニクスを売上的大幅な伸び、アナリスト予想を上回る収益の改善を発表したことから、買い増しました。一方で、倉庫自動化の需要が一時的に減速する可能性を考慮して米国のコグネックスを一部売却しました。

### 【当ファンドのベンチマークの差異】

当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ファンダメンタル・リサーチに基づくボトムアップの銘柄選定にフォーカスした運用を行います。従って、運用目標となるベンチマークを設けておりません。

### 【分配金】

当期は、基準価額の水準等を勘案し、収益の分配を見送らせていただきました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用いたします。

### 分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

		第15期
		2023年2月14日～2023年8月14日
当期分配金		—
	（対基準価額比率）	—%
	当期の収益	—
	当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額		18,918

（注1）「当期の収益」は「費用控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備設立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

（注2）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注3）「当期の収益」および「当期の収益以外」の算出に当たっては、1万口当たりで小数点以下を切捨てて表示していることから、合計した額が「当期分配金」と一致しない場合があります。

## ■今後の運用方針

### ○当ファンド

主要投資対象である「アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れる方針です。

### ○アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場の様々なロボット関連産業の企業に投資を行います。

「作る」では、ロボット産業におけるリーディング・カンパニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業などに注目しています。「運ぶ」では、自動運転技術を可能とするソフトウェアや半導体企業に注目しています。「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業などに注目しています。

労働市場では逼迫した状態が続いています。例えば、製造業や倉庫業では、労働コスト上昇や労働力不足に直面して、企業は効率性と生産性を向上させるため、テクノロジーを導入し、プロセスを自動化させる必要性に迫られています。労働力不足と賃金インフレは向こう数年にわたって自動化需要の大きな原動力になると考えています。また、米国はインフラ支出と設備投資によって国内の製造業を再活性化させようとしています。米国製造業向けにより多くの財政支出をし、主要なテクノロジーの保護に動き出しました。企業は国内の生産拠点へ再び投資するようになり、これによって技術の洗練、ロボット化・自動化を促しています。今後も、将来的な成長期待の高いロボット関連産業の企業に投資を行うことで中長期的な信託財産の成長を目指します。

## ■1万口当たりの費用明細（2023年2月14日～2023年8月14日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	80円	0.288%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額は27,698円です。
（投 信 会 社）	(76)	(0.274)	投信会社分は、委託した資金の運用の対価
（販 売 会 社）	( 1)	(0.003)	販売会社分は、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	( 3)	(0.011)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
売 買 委 託 手 数 料	2	0.006	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（株 式）	( 2)	(0.006)	
そ の 他 費 用	2	0.007	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（監 査 費 用）	( 0)	(0.000)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	( 2)	(0.007)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合 計	83	0.301	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買及び取引の状況（2023年2月14日～2023年8月14日）

親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド	1,897,263	4,000,000	12,687,655	30,036,000

(注) 単位未満は切捨て。

■株式売買比率（2023年2月14日～2023年8月14日）

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
	アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド
(a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額	73,876,515千円
(b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	267,199,860千円
(c) 売 買 高 比 率(a)/(b)	0.27

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等（2023年2月14日～2023年8月14日）

期中の利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定されている利害関係人です。

■第一種金融商品取引業又は第二種金融商品取引業を兼務している投資委託業者の自己取引状況（2023年2月14日～2023年8月14日）

期中における当該事項はありません。

■組入資産の明細（2023年8月14日現在）

親投資信託残高

種 類	期 首 (前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド	117,058,825	106,268,432	259,656,288

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

(2023年8月14日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド	259,656,288	99.6
コール・ローン等、その他	1,065,569	0.4
投資信託財産総額	260,721,858	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンドにおいて、期末における外貨建て資産（231,258,177千円）の投資信託財産総額（273,214,916千円）に対する比率は、84.6%です。

(注3) 外貨建て資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは1米ドル=145.11円、1台湾ドル=4.559円、1ノルウェークロネ=13.89円、1ユーロ=158.71円です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2023年8月14日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	260,721,858,644円
コール・ローン等	95,569,907
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド(評価額)	259,656,288,737
未 収 入 金	970,000,000
(B) 負 債	954,562,428
未 払 解 約 金	200,000,000
未 払 信 託 報 酬	754,030,137
そ の 他 未 払 費 用	532,291
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	259,767,296,216
元 本	90,108,141,237
次 期 繰 越 損 益 金	169,659,154,979
(D) 受 益 権 総 口 数	90,108,141,237口
1万口当たり基準価額(C/D)	28,828円

1. 期首元本額 99,017,873,025円  
 期中追加設定元本額 1,589,621,705円  
 期中一部解約元本額 10,499,353,493円  
 2. 1口当たり純資産額 2,8828円

■損益の状況

当期(自 2023年2月14日 至 2023年8月14日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 38,020円
受 取 利 息	2,008
支 払 利 息	△ 40,028
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	30,550,928,862
売 買 益	33,047,921,933
売 買 損	△ 2,496,993,071
(C) 信 託 報 酬 等	△ 754,574,791
(D) 当 期 損 益 金(A+B+C)	29,796,316,051
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	93,569,132,696
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	46,293,706,232
(配 当 等 相 当 額)	( 47,096,357,614)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 802,651,382)
(G) 計 (D+E+F)	169,659,154,979
次 期 繰 越 損 益 金(G)	169,659,154,979
追 加 信 託 差 損 益 金	46,293,706,232
(配 当 等 相 当 額)	( 47,102,683,102)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 808,976,870)
分 配 準 備 積 立 金	123,365,448,747

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(882,967,697円)、費用控除後の有価証券等損益額(18,361,245,860円)、信託約款に規定する収益調整金(47,102,683,102円)および分配準備積立金(104,121,235,190円)より分配対象収益は170,468,131,849円(10,000口当たり18,918.17円)ですが、当期に分配した金額はありません。

当マザーファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	信託財産の成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式（DR（預託証券）を含みます。以下同じ。）および株式関連証券
運用方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>技術革新が進展することで、ロボットおよび自動システムならびにセンサーシステムが産業プロセス、交通、ヘルスケアおよびコンシューマー向けアプリケーションに、より一層統合されることを目指す分野に着目し、世界中の主としてロボット関連および自動システムに関する調査、開発、デザインおよび製作に従事する企業に投資することで、信託財産の成長を目指して運用を行います。</li> <li>ポートフォリオの構築にあたっては、次の方針で行うことを基本とします。 <ol style="list-style-type: none"> <li>日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式から、ロボット・テクノロジーに関連する成長テーマを特定し、金融・経済情勢などを勘案することで長期にわたり成長の可能性を有する企業群を投資対象銘柄とします。</li> <li>投資対象銘柄の中から、中長期的にロボット関連事業が業績に対して大きな影響を有することが期待される企業に着目し、高度な技術力、強力な経営陣、価格決定力および業績上方修正の可能性などを考慮することで、組入候補銘柄を選定します。</li> <li>選定した組入候補銘柄から、アクサ・インベストメント・マネージャーズの企業調査機能などを活用し、中長期的な業績拡大によって株価上昇が見込まれる銘柄を選択します。また、株価の上昇期待度、下落の余地やバリュエーションなどを考慮して組入比率を決定し、ポートフォリオを構築します。</li> </ol> </li> <li>株式および株式関連証券の組入比率は、原則として高位に維持します。</li> <li>運用にあたっては、アクサ・インベストメント・マネージャーズUKリミテッドに運用の指図に関する権限を委託します。</li> <li>外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。</li> <li>資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</li> </ol>
株式組入制限	無制限

# アクサ IM・グローバル・ ロボット関連株式マザーファンド

## 運用報告書

第8期（決算日：2023年8月14日）

（計算期間 2022年8月16日～2023年8月14日）



■最近5期の運用実績

決算期	基準 額	騰落率		株組 入比率	純資 産額
		期騰	中率		
	円		%	%	百万円
4期末(2019年8月13日)	11,155	△ 5.9		98.6	298,397
5期末(2020年8月13日)	16,315	46.3		97.0	262,542
6期末(2021年8月13日)	22,368	37.1		97.9	299,321
7期末(2022年8月15日)	21,962	△ 1.8		95.5	281,351
8期末(2023年8月14日)	24,434	11.3		97.2	272,244

(注1) 基準価額は1万円当たり。

(注2) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■当期中の基準価額の推移

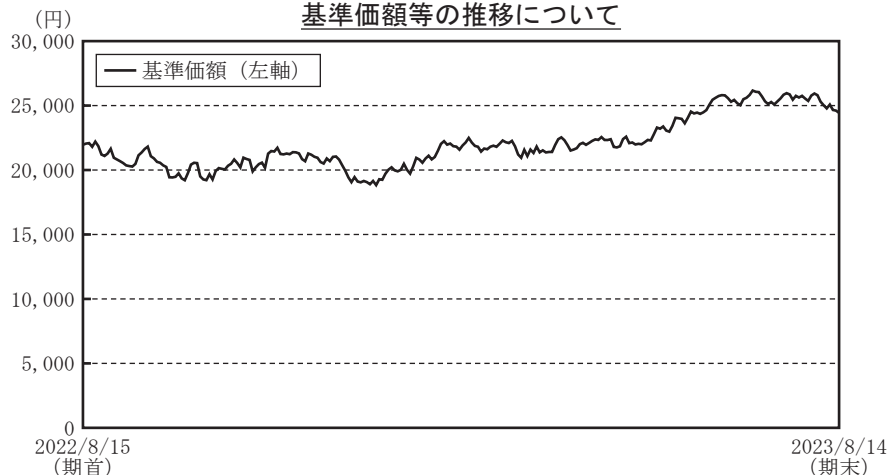
年 月 日	基準 額	騰落率		株組 入比率
		騰	落率	
(期首) 2022年8月15日	円 21,962		% —	% 95.5
8月末	20,689	△ 5.8		94.8
9月末	19,352	△11.9		94.5
10月末	20,958	△ 4.6		96.8
11月末	20,684	△ 5.8		95.4
12月末	19,153	△12.8		95.1
2023年1月末	20,825	△ 5.2		94.7
2月末	21,807	△ 0.7		95.2
3月末	22,392	2.0		96.0
4月末	21,843	△ 0.5		95.9
5月末	23,968	9.1		97.0
6月末	25,821	17.6		97.3
7月末	25,775	17.4		96.6
(期末) 2023年8月14日	円 24,434	11.3		97.2

(注1) 基準価額は1万円当たり。騰落率は期首比です。

(注2) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■当期の運用状況（2022年8月16日～2023年8月14日）

基準価額等の推移について



【基準価額の主な変動要因】

当期は、米国などの保有銘柄の株価が上昇したことがプラス要因となった他、為替市場で主要通貨に対して円安が進行したこともプラス要因となり、基準価額は上昇しました。

【投資環境について】

○グローバル株式市場

当期のグローバル株式市場は、上昇しました。期初よりエネルギー価格高騰や幅広い物価上昇による消費減退懸念から、マクロ経済の先行きに対する不透明感が市場センチメントを支配して、株価は下落しました。9月も米連邦準備制度理事会（FRB）が6月、7月に続いて3回連続で0.75%の大幅利上げを実施したことを受けて、引き続き下落しました。10月に入ると一転して株価は反発し、11月の7-9月期の企業決算では、市場全体で約50%の企業がアナリストの業績予想を上回り、株価は上昇しました。12月に入ると前月の上昇から反落しましたが、2023年に入ると中国の経済再開が急速に進み景気回復への期待が高まったことや、欧米経済のソフトランディング（景気が急激に後退することなく緩やかに減速すること）への可能性が高まっていることを示すデータが相次いだことで株式市場は活気づき再び上昇基調になりました。3月には米テクノロジー企業への融資で知られるシリコンバレーバンク（SVB）が経営破綻した影響を受けて、株価は大きく下落した場面も見られたものの月末にかけて上昇しました。4月に入ると銀行システムに対する不安や米国の債務上限問題が市場参加者にとって新たな懸念材料となりましたが、2023年1-3月期の企業決算発表が概ね良好な結果となり、引き続き上昇しました。6月には米国債務上限問題の解決、銀行経営危機の収束、米国の利上げ停止（あるいは一時停止）、底堅い経済指標や良好な4-6月期の企業決算などの好材料が相まって当月の株式市場を押し上げました。7月以降も米国をはじめとして各国でインフレ率の低下傾向が続いていることが市場で好感されたことや、米国経済のソフトランディング期待が高まったことから堅調に推移して、年初からの上昇幅を拡大しました。

○為替市場

為替市場では、米ドル・円レートは期初の133円台から期末には145円台となり、ユーロ・円レートは期初の135円台から期末には158円台となりました。

当期は、米ドルは日米金利差が意識されたことや、2023年4-6月（第2四半期）実質国内総生産（GDP）成長率（速報値）が市場予想（1.8%増）を上回ったことから、ユーロはインフレ圧力が続く中、欧州中央銀行（ECB）が7月に9会合連続で利上げを決定し、金融引き締め姿勢を継続する可能性があることなどから米ドル・ユーロに対して円安が進行しました。

**【ポートフォリオについて】**

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場の様々なロボット関連産業の企業に投資を行い、信託財産の成長を目指しました。具体的には、ロボット関連産業、製造業・運輸・ヘルスケアなどの分野で自動化を行う企業、これらの企業の技術を下支えする半導体企業やソフトウェア企業などの銘柄を組み入れました。企業規模の面ではアマゾン・ドット・コムやキーエンスのような大型株からシリコン・ラボラトリーズやグローバス・メディカルなどの中小型株にも幅広く投資しています。地域別ではロボット関連産業の技術革新において先進的な地域である米国、日本を中心に投資をしています。

期中は、株価が割安な水準にあった日本の資本財企業で産業自動化ビジネスに強みを持つ三菱電機や、溶接・切断技術のスペシャリストで、顧客に自動化ソリューションを提供することに特に注力している米国のリンカーン・エレクトリック・ホールディングズと半導体製造用機器・サービス・ソフトウェアを提供している米国のアプライド・マテリアルズを新規に組み入れました。また、また、仙骨神経刺激装置を手掛ける米国のアクソニクスを売上の大幅な伸び、アナリスト予想を上回る収益の改善を発表したことから、買い増ししました。一方で、倉庫自動化の需要が一時的に減速する可能性を考慮して米国のコグネックスを一部売却し、ジョンソン・エンド・ジョンソンにより約50%のプレミアム（発表前の株価対比）で買収されると発表されたのを受けて米国のヘルステック企業アビオメッドを全売却しました。

**【当ファンドのベンチマークとの差異】**

当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ファンダメンタル・リサーチに基づくボトムアップの銘柄選定にフォーカスした運用を行います。従って、運用目標となるベンチマークを設けておりません。

**【今後の運用方針】**

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場の様々なロボット関連産業の企業に投資を行います。

「作る」では、ロボット産業におけるリーディング・カンパニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業などに注目しています。「運ぶ」では、自動運転技術を可能とするソフトウェアや半導体企業に注目しています。「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業などに注目しています。

労働市場では逼迫した状態が続いています。例えば、製造業や倉庫業では、労働コスト上昇や労働力不足に直面して、企業は効率性と生産性を向上させるため、テクノロジーを導入し、プロセスを自動化させる必要性に迫られています。労働力不足と賃金インフレは向こう数年にわたって自動化需要の大きな原動力になると考えています。また、米国はインフラ支出と設備投資によって国内の製造業を再活性化させようとしています。米国製造業向けにより多くの財政支出をし、主要なテクノロジーの保護に動き出しました。企業は国内の生産拠点へ再び投資するようになり、これによって技術の洗練、ロボット化・自動化を促しています。今後も、将来的な成長期待の高いロボット関連産業の企業に投資を行うことで中長期的な信託財産の成長を目指します。

■ 1万口当たりの費用明細 (2022年8月16日～2023年8月14日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	3円 (3)	0.011% (0.011)	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
そ の 他 費 用 (そ の 他)	3 (3)	0.013 (0.013)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
合 計	5	0.025	

(注1) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。期中の平均基準価額は22,010円です。

(注2) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■ 売買及び取引の状況 (2022年8月16日～2023年8月14日)

株 式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国 内	日 本	千株 3,108 (2,300)	千円 6,272,705 ( )	千株 1,112	千円 7,162,401
		百株 24,111 (227)	千米ドル 249,714 ( )	百株 48,889	千米ドル 426,300
外 国	台 湾	1,490	千台湾ドル 70,395	3,950	千台湾ドル 205,120
	イ ギ リ ス	901	千英ポンド 440	22,184	千英ポンド 21,716
	ノ ル ウ ェ ー ユーロ	37,389	千ノルウェークローネ 71,429	10,025	千ノルウェークローネ 22,266
	フ ラ ン ス	154	2,187	326	4,968
	ド イ ツ	3,244	13,985	4,950	22,358
	そ の 他	2,894	1,001	6,120	2,002

(注1) 金額は受け渡し代金。

(注2) ( )内は増資割当、株式転換・合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 単位未満は切捨て。

■ 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合 (2022年8月16日～2023年8月14日)

項 目	当 期
(a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額	120,080,839千円
(b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	254,549,752千円
(c) 売 買 高 比 率(a)／(b)	0.47

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄 (2022年8月16日～2023年8月14日)

買		付		売		付	
銘柄	株数	金額	平均単価	銘柄	株数	金額	平均単価
	千株	千円	円		千株	千円	円
三菱電機	2,820	4,056,397	1,438	NXP SEMICONDUCTORS NV	256	5,852,874	22,860
APPLIED MATERIALS INC	167	3,272,120	19,536	ABIOMED INC	80	4,227,211	52,655
ZEBRA TECHNOLOGIES CORP-CL A	71	2,705,441	37,779	ON SEMICONDUCTOR CORPORATION	386	3,900,685	10,104
NXP SEMICONDUCTORS NV	90	2,518,563	27,910	NVIDIA CORP	102	3,882,098	37,723
TESLA, INC.	66	2,198,671	33,230	QUALCOMM INC	198	3,211,312	16,161
GXO LOGISTICS INC	287	2,105,223	7,311	SILICON LABORATORIES INC	147	3,109,023	21,090
ASPEN TECHNOLOGY INC	69	1,782,620	25,810	TEXAS INSTRUMENTS INC	120	3,070,921	25,501
DEXCOM INC	87	1,432,229	16,295	ADVANCED MICRO DEVICES	222	3,005,717	13,499
AXONICS MODULATION TECHNOLOG	175	1,429,425	8,134	WOLFSPEED INC	349	2,886,236	8,247
LINCOLN ELECTRIC HOLDINGS	58	1,405,621	24,045	AVEVA GROUP PLC	462	2,299,970	4,972

(注1) 金額は受け渡し代金。

(注2) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等 (2022年8月16日～2023年8月14日)

期中の利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定されている利害関係人です。

■第一種金融商品取引業又は第二種金融商品取引業を兼務している投資委託業者の自己取引状況 (2022年8月16日～2023年8月14日)

期中における当該事項はありません。

■組入資産の明細 (2023年8月14日現在)

(1) 国内株式

銘柄	株数	当期末	
		評価額	
		株数	金額
	千株	千株	千円
<b>機械 (29.4%)</b>			
ナブテスコ	903	913	2,501,253
SMC	76	71	4,988,718
ダイフク	521	1,470	3,985,132
<b>電気機器 (70.6%)</b>			
三菱電機	—	2,533	4,685,893
安川電機	825	775	4,439,534
ニデック	315	—	—
オムロン	472	444	3,108,700
キーエンス	161	152	9,043,866
ファナック	327	1,539	6,314,208
合計	株数・金額 銘柄数<比率>	3,604 8	7,900 8 <14.4%>

(注1) 銘柄欄の( )内は国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注2) 合計欄の< >内は純資産総額に対する評価額の比率。

(注3) 単位未満は切捨て。

(2) 外国株式

銘 柄	前 期 末	当 期 末	評 価 額		業 種 等
	株 数	株 数	外貨建金額	邦貨換算金額	
(アメリカ)	百株	百株	千米ドル	千円	
NXP SEMICONDUCTORS NV	2,450	792	16,179	2,347,759	半導体・半導体製造装置
KORNIT DIGITAL LTD	2,802	4,729	10,878	1,578,571	資本財
ABIOMED INC	792	—	—	—	ヘルスケア機器・サービス
ADVANCED MICRO DEVICES	4,689	3,574	38,449	5,579,422	半導体・半導体製造装置
APTIV PLC	3,525	3,312	32,695	4,744,438	自動車・自動車部品
ALPHABET INC-CL C	5,296	4,267	55,546	8,060,300	メディア・娯楽
AMAZON.COM INC.	4,391	4,451	61,618	8,941,496	一般消費財・サービス流通・小売り
ANSYS INC	1,214	1,140	34,367	4,987,061	ソフトウェア・サービス
APPLE INC.	2,717	2,216	39,411	5,719,042	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
APPLIED MATERIALS INC	—	1,623	22,539	3,270,762	半導体・半導体製造装置
AUTODESK INC	2,422	1,965	40,878	5,931,877	ソフトウェア・サービス
AXONICS MODULATION TECHNOLOG	6,112	7,062	41,335	5,998,214	ヘルスケア機器・サービス
BENTLEY SYSTEMS INC-CLASS B	5,631	5,824	27,236	3,952,238	ソフトウェア・サービス
CADENCE DESIGN SYS INC	3,095	2,908	65,750	9,541,076	ソフトウェア・サービス
COGNEX CORP	7,629	5,969	29,155	4,230,687	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
CONMED CORP	2,729	3,032	34,244	4,969,278	ヘルスケア機器・サービス
ALTAIR ENGINEERING INC - A	4,315	4,837	30,298	4,396,562	ソフトウェア・サービス
DEXCOM INC	6,013	6,178	69,008	10,013,848	ヘルスケア機器・サービス
ASPEN TECHNOLOGY INC	772	1,241	23,556	3,418,218	ソフトウェア・サービス
GXO LOGISTICS INC	2,455	4,860	30,764	4,464,190	運輸
GLOBUS MEDICAL INC-A	5,023	4,720	26,923	3,906,936	ヘルスケア機器・サービス
ILLUMINA INC	711	787	14,221	2,063,650	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
INTUITIVE SURGICAL INC	2,838	2,918	88,870	12,895,966	ヘルスケア機器・サービス
LINCOLN ELECTRIC HOLDINGS	—	559	10,597	1,537,844	資本財
LUMENTUM HOLDINGS INC	2,548	—	—	—	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
MICROCHIP TECHNOLOGY INC	5,519	5,186	42,410	6,154,259	半導体・半導体製造装置
NOVANTA INC	2,038	1,915	29,365	4,261,254	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
NVIDIA CORP	2,551	1,862	76,077	11,039,580	半導体・半導体製造装置
ON SEMICONDUCTOR CORPORATION	7,677	4,102	38,795	5,629,621	半導体・半導体製造装置
QUALCOMM INC	5,246	3,524	40,389	5,860,950	半導体・半導体製造装置
SILICON LABORATORIES INC	4,345	3,071	41,980	6,091,850	半導体・半導体製造装置
TANDEM DIABETES CARE INC	983	—	—	—	ヘルスケア機器・サービス
TERADYNE INC	5,224	4,696	47,773	6,932,386	半導体・半導体製造装置
TESLA, INC.	71	868	21,085	3,059,725	自動車・自動車部品
TEXAS INSTRUMENTS INC	1,142	—	—	—	半導体・半導体製造装置
THERMO FISHER SCIENTIFIC INC	995	935	50,884	7,383,808	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
TRIMBLE INC	6,559	6,163	34,262	4,971,767	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
VIAVI SOLUTIONS INC	11,183	—	—	—	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
WOLFSPEED INC	2,628	—	—	—	半導体・半導体製造装置
ZEBRA TECHNOLOGIES CORP-CL A	—	661	17,335	2,515,623	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
AMBARELLA INC	2,833	2,662	19,139	2,777,394	半導体・半導体製造装置
小 計	株 数 銘 柄 数<比 率>	139,173 38	114,626 35	1,304,029 —	189,227,670 <69.5%>

銘柄	株数	株数	期末		業種等
			外貨建金額	邦貨換算金額	
(台湾) TAIWAN SEMICONDUCTOR MANUFACTURING	百株 27,630	百株 25,170	千台湾ドル 1,374,282	千円 6,265,901	半導体・半導体製造装置
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	株数 1	1	1,374,282 6,265,901 — <2.3%>	
(イギリス) OCADO GROUP PLC AVEVA GROUP PLC	16,657 4,625	— —	千英ポンド — —	— —	生活必需品流通・小売り ソフトウェア・サービス
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	21,282 2	— —	— — — <—>	
(ノルウェー) AUTOSTORE HOLDINGS LTD-W/I	57,296	84,660	千ノルウェー クローネ 186,422	2,589,410	資本財
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	57,296 1	84,660 1	186,422 2,589,410 — <1.0%>	
(フランス) SCHNEIDER ELECTRIC SE	2,852	2,680	千ユーロ 42,711	6,778,701	資本財
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	2,852 1	2,680 1	42,711 6,778,701 — <2.5%>	
(ドイツ) SIEMENS AG INFINEON TECHNOLOGIES AG KION GROUP AG	4,611 12,702 4,989	4,333 11,015 5,248	千ユーロ 59,545 36,743 19,341	9,450,438 5,831,613 3,069,677	資本財 半導体・半導体製造装置 資本財
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	22,303 3	20,597 3	115,630 18,351,729 — <6.7%>	
(その他) MAREL HF	53,451	50,224	千ユーロ 15,117	2,399,325	資本財
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	53,451 1	50,224 1	15,117 2,399,325 — <0.9%>	
ユーロ計	株数・金額 銘柄数<比率>	78,607 5	73,503 5	173,459 27,529,756 — <10.1%>	
合計	株数・金額 銘柄数<比率>	323,994 47	297,960 42	— 225,612,739 — <82.9%>	

(注1) 邦貨換算金額は期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) 小計欄の< >内は純資産総額に対する各通貨別評価額の比率。

(注3) 合計欄の< >内は純資産総額に対する評価額の比率。

(注4) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

(2023年8月14日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株 式	264,680,045	96.9
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	8,534,870	3.1
投 資 信 託 財 産 総 額	273,214,916	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 期末における外貨建て資産(231,258,177千円)の投資信託財産総額(273,214,916千円)に対する比率は、84.6%です。

(注3) 外貨建て資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは1米ドル=145.11円、1台湾ドル=4.559円、1ノルウェークロネ=13.89円、1ユーロ=158.71円です。

■資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2023年8月14日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	273,214,916,172円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	8,490,874,354
株 式(評価額)	264,680,045,660
未 収 配 当 金	43,996,158
(B) 負 債	970,086,202
未 払 解 約 金	970,000,000
そ の 他 未 払 費 用	86,202
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	272,244,829,970
元 本	111,419,293,139
次 期 繰 越 損 益 金	160,825,536,831
(D) 受 益 権 総 口 数	111,419,293,139口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額 (C/D)	24,434円

1. 期首元本額	128,106,556,944円
期中追加設定元本額	4,379,470,444円
期中一部解約元本額	21,066,734,249円
2. 1口当たりの純資産額	2,4434円
3. 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額	106,268,432,814円
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジなし) (適格機関投資家専用)	5,150,860,325円
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジあり) (適格機関投資家専用)	111,419,293,139円
期末元本合計	

■損益の状況

(2022年8月16日～2023年8月14日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	1,990,085,861円
受 取 配 当 金	1,708,587,813
受 取 利 息	283,746,080
そ の 他 収 益 金	196,845
支 払 利 息	△ 2,444,877
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	27,456,352,539
売 買 益	52,059,949,537
売 買 損	△ 24,603,596,998
(C) そ の 他 費 用	△ 37,338,039
(D) 当 期 損 益 金 (A+B+C)	29,409,100,361
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	153,245,172,665
(F) 解 約 差 損 益 金	△ 26,484,265,751
(G) 追 加 信 託 差 損 益 金	4,655,529,556
(H) 計 (D+E+F+G)	160,825,536,831
次 期 繰 越 損 益 金 (H)	160,825,536,831

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(F)解約差損益金とあるのは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注3) 損益の状況の中で(G)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。